

101-258

問題文

62歳女性。3年前に糖尿病と診断され、処方1及び処方2で治療中。最近、手足に痛みやしびれ感があるため処方3が追加となった。

(処方1)

メトホルミン塩酸塩錠 250 mg	1 回 1 錠 (1 H 3 錠)
	1 H 3 回 朝昼夕食後 14 日分

(処方2)

ピオグリタゾン錠 15 mg	1 回 0.5 錠 (1 H 0.5 錠)
アログリプチン安息香酸塩錠 25 mg	1 回 1 錠 (1 H 1 錠)
	1 H 1 回 朝食後 14 日分

(処方3)

プレガバリンカプセル 75 mg	1 回 1 カプセル (1 H 2 カプセル)
	1 H 2 回 朝夕食後 14 日分

問258

処方3の服薬指導として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 痛みやしびれ感の改善があれば、薬をやめても構いません。
2. アルコールは薬の作用に影響しますので、控えてください。
3. ぼんやりしたり、めまい、意識消失などが起こることがあります。
4. 血液を固まりにくくし、血のめぐりを良くすることで痛みをやわらげます。

問259

処方1～3の薬物の作用機序として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. アルドース還元酵素を阻害し、末梢神経障害を改善する。
2. AMP依存性プロテインキナーゼを活性化し、肝臓での糖新生を抑制する。
3. ペルオキシソーム増殖剤応答性受容体 α (PPAR α)を活性化し、インスリン抵抗性を改善する。
4. オピオイド μ 受容体を刺激し、鎮痛作用を示す。
5. ジベプチルジルベプチダーゼ-4(DPP-4)を阻害し、インクレチンの作用を増強する。

解答

問258 : 2, 3問259 : 2, 5

解説

問258

選択肢 1 ですが
リリカは、離脱症状が知られており独自の判断での休薬はいけません。薬をやめる時は医師の判断の上、徐々に休薬していきます。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2,3 は、正しい選択肢です。

選択肢 4 ですが
リリカは、末梢性神経障害性疼痛治療薬です。Ca チャネル $\alpha 2$ リガンド に分類される GABA 誘導体です。血液を固まりにくくする作用はありません。よって、選択肢 4 は誤りです。

以上より、正解は 2,3 です。

問259

選択肢 1 ですが

アルドース還元酵素阻害剤は、エパルレスタット（キネダック）です。処方 1～3 には、ありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は

メトホルミンの作用機序として正しい選択肢です。

選択肢 3 ですが

PPAR α の活性化は、脂質異常症薬の一種であるフィブラート系の作用機序です。ちなみにPPAR「 α 」ではなく、「 γ 」に作用し、インスリン抵抗性を改善するのがピオグリタゾンです。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

μ 受容体刺激は、モルヒネなどです。処方 1～3 には、ありません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は

アログリブチンの作用機序として正しい選択肢です。

以上より、正解は 2,5 です。